

悩んでいます。
今も答えを見つけれずにいます。

0円×10＝2000円？
なぜ定価0円のフリーペーパーが
10冊合わさると2000円になるのか。

バルコ出版の異分子的編集者であり
月刊 風とロックの愛読者でもいてくれる
柳原さんが持ってきてくださった
「風とロック別冊書籍化」企画は
僕にとって
うれしいニュースであると同時に
頭の痛い大きな悩みになりました。

2005年4月、
普段は広告を作っている僕が
右も左もわからないままの素人編集で
突発的に「月刊 風とロック」(定価0円)を創刊しました。
以来、
毎号毎号3桁万円の赤字を出しながらの手作りと手探り。
この4月に無事なんとか創刊一周年を迎えることができたのも
本当にたくさんの人たちに支えられてこそ。
ひとえに毎月楽しみに待っていてくれる2万人の読者のみなさんと、
平間至さんヒロ杉山さんをはじめ、僕を励まし応援して参加くださる方々、
そして、こんな弱小な媒体に快く登場してくれるアーティストたち。

僕が好きなもの以外一切載せない
ドキドキがざっしりの
「金持ち中学生のスクラップブック」。
「棺桶に入れて欲しい一冊」。
そして「へたくそデザイン」。
月刊 風とロックは、
完全に意味不明の超個人的な趣味雑誌。
だから『タダ』にこだわり続けています。
事務所の電話が料金未納で止められても。
クルマのローンが払えなくなって福島の実家にクレジット会社から電報が届いても。
銀行からお金を借りながら
広告の仕事で得た資金をビストン注入しながら
このスクラップブックをどこまで続けられるか試したい。
いつの間にか、赤字が、生きてる実感にすりかわっている。
自分でも訳がわからない、僕のわがままなドキュメンタリー。

だからこそ悩みました。
なぜ定価0円のフリーペーパーが10冊合わさると2000円になるのか。

一方で、
月刊 風とロック愛読者のみなさんから
メールやお手紙をたくさんいただきます。

風とロックが入手できない県に住んでいる方
風とロックがあるタワーレコードまで電車賃が往復1000円以上かかるという方
せっかくもらいに行ったのにもう無くなっていたという声
タダのものをインターネットオークションに出す心無い行為への疑問
ひとりで10冊も取って行ってしまうケース・・・

僕は、(甘っちょろいかもしれませんが)
風とロックが僕だけのものじゃなくなっていることに戸惑いながら、
本当は欲しいと思ってくれる人全員に 風とロックを手渡したいと思っている。
意味のない余計な価値なんかつけずに。

でも無理です。
僕の力では
今の2万部が
すでに限界を超えた数字なのです。
部数を増やせば増やすほど
赤字が大きくなるだけなのです。

悩んでいます。
今も答えを見つけれずにいます。

この別冊書籍化は、
できるだけたくさんの方の声に応じて
風とロックを手に取りやすくするための
ひとつの思い切った実験。
全国の書店からの注文流通。
僕なりの感謝とおわびも込めながら。

柳原さんと相談を重ねました。
できるだけ価格を可能な限界まで抑えよう。
それでなんとかギリギリ2000円。
このページ構成では他では成立しない価格のはずです。
この別冊を、できれば無料で配布したかった無念との葛藤と戦いながらの着地です。

この別冊により
風とロックには数パーセントの印税が入ります。
その収益はすべて月刊 風とロックを継続してゆくために使います。
銀杏の峯田くんが、初台DOORSでの原爆オナニーズとの対バンで言っていた
「芸術活動で得たお金は芸術活動に使う」。
僕も死ぬまでそうありたいいつも思います。

そして、ほんの少しですが、
月刊では見ることのできないページを 巻頭に作ることにしました。
4月に渋谷クラブクアトロで開催した
「風とロックFES 2006」の記事です。

最後になってしまいましたが、
前述の通りたくさんの方が支えてくれている風とロック。
平間至さんヒロ杉山さん、執筆者やカメラマンの方々。
ミュージシャンのみなさん、すべての関係者の方々。
そして読者のみなさん・・・

いつも本当にありがとうございます。

月刊 風とロック(定価0円) はやめません。
これからもよろしく願いいたします。

平間至

月刊 風とロック (定価0円)
編集長 箭内道彦